▶日本農園で説明を聞く自治会長の皆さん

農業振興・ダム周辺整備を考える
平成18年度 自治会長会研修視察

奥出雲町の重要施策を自治会長の皆さんと考える平成十八年度の自治会長会研修視察が五月二十日から二十一日にかけて行われました。

今年は、本町の国営農地開発事業による農地の有効活用、第三セクター「(有)奥出雲サンマッシュ」の経営改善等を含めた農業振興と今年度から本体工事が着手された尾原ダムの周辺整備、ダムを活用した町の活性化等をテーマに広島県神石高原町、世羅町、安芸太田町などを訪れました。

今回で二回目となるこの視察には、町民の理解も深まり、昨年を上回る百十一人の自治会長に参加を頂きましたので、その模様を紹介します。

アグリパーク陽光（ひかり）の里 ㈱日本農園

最初に訪れた神石高原町の「アグリパーク陽光の里」では、U・Iターン者を対象に、町が造成した農用地にハウス栽培施設を建設、トマト団地を整備し、全国から入植者を募集しています。

この事業には本町と同様な中山間地でありながら、全国から多くの希望者があり、農業後継者の増加、また定住対策、交流人口の増加が図られています。

次に訪れた世羅町では、国営農地開発事業で整備した農地に農業参入している㈱日本農園を視察しました。

日本農園では、一・六ヘクタールのハウスでの温室水耕栽培により新鮮なサラダ菜を栽培しています。

広大でクリーンな環境のもと周年栽培が行われ、出荷されるサラダ菜は全国シェアの約二十五パーセントを誇っています。

また隣接地には、八・五ヘクタールの大規模なハウス栽培を行っている大手食品メーカー・カゴメと提携している世羅農園を視察しました。

奥出雲町には国営農地開発事業による畑地が二百九十二ヘクタールあり、現在では町内四社の民間業者が農業分野に参入するなど国営農地の利用が進められていますが、大方の農地は未利用で、行政の大きな課題となっています。

両施設での視察は、U・Iターン、企業参入の両面から国営農地について考える良い機会となりました。

▲ハウス施設での野菜栽培を見学